



右/Right: 西村 涼/ Ryou Nishimura, 遊離2, 2019, 銅版画インク、シリウス水彩画紙/ copperplate print ink, sirius watercolor paper, H53 × W73.1 cm

左/ Left: 北浦 雄大/ Yudai Kitaura, 響動き, 2016, 漆、顔料、麻布、鮑貝、卵殻、青貝箔、金粉/ Urushi (Japanese lacquer), pigments, hemp cloth, sea-ear shell, eggshell, Aogai leaf, gold powder, H128 × W50 × D74 cm

ことだまー浮上と持続ー

北浦雄大・西村涼

2019年8月3日(土) - 8月31日(土)

オープニング・レセプション: 8月3日(土) 4:30 - 6:00PM

現代美術 艸居

京都市東山区古門前通大和大路東入ル元町 381-2

開廊時間: 10:00-6:00PM 定休日: 日・月

夏季休業期間: 8月11日(日) - 8月19日(月)



プレスリリース

この度、現代美術 艸居では「ことだまー浮上と持続ー 北浦雄大・西村涼」展を開催致します。漆を用いて伝承や神話をモチーフとした存在を形作る北浦雄大の彫刻的な立体作品と、版画という平面において自然のほとぼしる流動性そのものを可視化したような西村涼の作品を併せてご覧いただけます。

両作家とも弊廊でのご紹介は今回が初めてとなります。京都市立芸術大学大学院在籍／修了したばかりの新進気鋭のみずみずしい才能を、是非ご高覧ください。

北浦雄大は主に漆を扱った作品を制作しています。縄文時代より土器や櫛、祭祀具など精神生活を支えるものに施されてきた漆。当時の人々はモチーフをそのまま表現するのではなく特徴や動きから抽出された概念的で曖昧な造形を行っていました。そういった伝承や神話、目に見えず曖昧でときに非合理的な存在への関心を持ち続け、進歩主義やテクノロジーの中でも、「曖昧」という答えをも受け入れられる人間について思いを馳せつつ、作品を産み出しています。

西村涼は銅版画のドライポイントという技法を用いながら、立ち上る煙や、水に溶けていくインクといった常に形が変化し続けるものを通して、自然物の流動性を追求しています。

人は普段風景や現象を見る時、時間に沿って流れる動きを切り取って認識しています。言い換えるとたくさんの瞬間的図像を連ねることで時間の流れをイメージしているということでもあります。

空間に広がりやがて溶け込んでいく流動性を自身が彫る線の軌跡によってイメージに変換し、“形からイメージ”、“イメージから形”への移行/変質/抽出を問う試みに取り組んでいます。

北浦 雄大 (きたうら ゆうだい)

1994年生まれ。2018年に京都市立芸術大学美術学部漆専攻を卒業し、現在は京都市立芸術大学大学院美術研究科 修士課程 漆工専攻に在籍。主な受賞／入選歴には、2017年京都市立芸術大学作品展（平館賞）、国際瀧富士美術賞（優秀賞）、2018年京都市立芸術大学卒業作品展（市長賞）、池袋アートギャザリング（奨励賞）などがある。

西村 涼 (にしむら りょう)

1994年京都府生まれ。2016年に京都精華大学芸術学部メディア造形学科版画コース卒業



し、2018 年京都市立芸術大学大学院修士課程修了。現在は京都府にて制作を行う。主な受賞／入選歴には、2016 年第 41 回全国大学版画展(町田市立国際版画美術館收藏賞)(同 2017 年)、2017 年第 10 回高知国際版画トリエンナーレ展(日和崎尊夫賞)、2018 年京都市立芸術大学作品展(大学院市長賞)、ヤングプリント・プリントメーカー賞などがある。

是非、貴誌・貴社にてご紹介いただけますと幸甚に存じます。

掲載用、写真の貸出などご質問がございましたら下記までご連絡頂けますと幸いです。

艸居

プレス担当：元林久美子

〒605-0089

京都市東山区古門前通大和大路東入ル元町 381-2

Tel: 075-746-4456 Fax: 075-746-4457

info@gallery-sokyo.jp www.gallery-sokyo.jp